**パラグアイ内政・外交（２０１４年１２月分）**

内政では，最高裁判事と麻薬組織との関係など，司法府に関連する汚職をメディアが大々的に報じ，事の発端となったヌニェス判事を含めた４名の判事に対し，議会における弾劾裁判を求める世論が沸騰した。その結果，ヌニェス最高裁判事は辞任し，残る３名の最高裁判事については，３月以降に弾劾裁判が行われる可能性がある。

外交では，カルテス大統領がＵＮＡＳＵＲ首脳会合とメルコスール首脳会合に出席し，地域統合体を重視するパラグアイ政府の立場を改めて表明するとともに，社会政策分野に関する国内での取組を紹介するなど，国際社会に対しパラグアイの存在をアピールした。

**概要**

**（１）内政**

●２日，１０月に発生したabc紙記者殺害事件の主犯格と見られるビルマール・アコスタ氏（前ウペフ市長）に対して，過去に司法上の便宜を図っていたという疑惑が浮上していたビクトル・ヌニェス最高裁判事が辞表を提出した。

●１０日，下院臨時本会議において，最高裁判事３名及び最高選挙裁判所判事１名に対する弾劾裁判の実施にかかる審議が行われ，最高裁判事３名のみの弾劾裁判の実施が採択され，上院に送致された。

●１５日，上院における最高裁判事３名に対する弾劾裁判の可能性につき，与野党の議員１８名が弾劾裁判に反対する意志を正式に表明したため，年内の弾劾裁判の実施は不可能となった。

**（２）外交**

●５日，カルテス大統領はエクアドルを訪問し，ＵＮＡＳＵＲ本部において行われた特別首脳会合に出席した。

●８日～９日，カルテス大統領は第２４回イベロアメリカ・サミット出席のためメキシコ・ベラクルスを訪問し，同首脳会合においてステートメントを行うとともに，メキシコ及びスペインとの二国間会談を行った。

●１７日，カルテス大統領はアルゼンチン・パラナで行われた第４７回メルコスール首脳会合に出席し，同首脳会合においてステートメントを行った。

●１９日，パラグアイ外務省はプレスリリースを通じ，１２月１７日，ラウル・カストロ国家評議会議長とオバマ大統領が二国間関係正常化の開始を発表したことに満足の意を表明した。

**１　内政**

**（１）最高裁判事の辞任**

●２日，１０月に発生したabc紙記者殺害事件の主犯格と見られるビルマール・アコスタ氏（前ウペフ市長）に対して，過去に司法上の便宜を図っていたという疑惑が浮上していたビクトル・ヌニェス最高裁判事が辞表を提出した。下院において，ヌニェス判事を含めた複数名の最高裁判事に対する弾劾裁判を行うための動議の提出が検討されており，必要とされる下院定員の３分の２の賛成が集まる見通しが立ったことから，弾劾裁判を避けるために辞任したものとみられる。なお,ヌニェス判事は，１１月４日，弾劾裁判の可能性につき，政治ショーに過ぎないため，弾劾裁判を受けるつもりはない旨述べ，辞任の可能性を示唆していた。

**（２）最高裁判事の弾劾裁判実施にかかる審議**

●１０日，下院臨時本会議において，セサル・ガライ・スッコリージョ最高裁判事（無所属，元コロラド党寄り），オスカル・バハック同判事（野党リベラル党寄り），シンドゥルフォ・ブランコ同判事（リベラル党寄り）及びアルベルト・ラミレス・サンボニーニ最高選挙裁判所判事（リベラル党寄り）に対する弾劾裁判の実施にかかる審議が行われ，最高裁判事３名の弾劾裁判の実施が３分の２以上の賛成で採択され，上院に送致された。他方で，サンボニーニ最高選挙裁判所判事の弾劾については，賛成０票，反対３２票，棄権４５票で見送られることとなった。

●同審議においては，オスカル・トゥマ下院議員（コロラド党）やビクトル・リオス下院議員（リベラル党）が，本件弾劾裁判を巡る動きは，私利私欲に基づく政治的なショーであり，単に判事を交代させるだけで真の司法改革にはつながらないとして，反対票を投じた。これに対し，ロメロ・ロア下院議員（コロラド党）は，判事の交代は国民からの要望であり，変化をもたらすためには新たな判事を任命する必要がある旨述べ，賛成票を投じた。

●今後，上院は，下院での審議結果及び被告３名による弁論を踏まえ審議することとなる。上院における票決の結果，３分の２（３０票）以上の賛成が得られた場合，被告は罷免される。

**（３）最高裁判事の弾劾裁判実施を巡る動き**

●１５日，上院における最高裁判事３名に対する弾劾裁判の可能性につき，与野党の議員１８名が弾劾裁判に反対する意志を正式に表明した。１８名の中には，フリオ・ベラスケス前上院議長など５名の与党コロラド党員が含まれている。

●１９日，弾劾裁判の実施に賛成し，ロビー活動を行ってきたブラス・ジャノ上院議長（リベラル党）は，賛成議員が２７名しか集まらなかったことから，弾劾裁判の実施を議会が再開する３月１日以降に延期せざる終えない旨述べた。

**（４）カルテス大統領のインタビュー記事**

●１４日付abc紙は，カルテス大統領に対する独占インタビューを掲載したところ，主な概要以下のとおり。

＜パラグアイにおける汚職＞

　現政権の１年目においては汚職スキャンダルが報じられることはなかった。現政権において汚職が全くないとは言い切れないものの，過去の政権に比べれば，微々たるものであると考える。引き続き，国民の要求に応えられるよう，政府の透明性を高めていく。

＜治安の悪化＞

一般治安については，アスンシオンやセントラル県ではバイク利用強盗の認知件数がそれぞれ３１％，２９％減少するなど成果があがっている。政権は，反政府武装組織パラグアイ人民軍（ＥＰＰ）が活動する北部地域でのプレゼンスを向上させ，ＥＰＰ対策だけでなく，現地住民のための社会インフラを整備し，貧困等，問題の根本的な解決を図っている。

＜麻薬取引＞

　麻薬取引への関与が政界に浸透していることは大きな問題である。各党党首は，麻薬取引への関与が疑われる党員を議員に擁立するのであれば，それ相応の責任を負うべきである。

＜最高裁判事に対する弾劾裁判の可能性＞

　司法府は政治的な影響を受けざるを得ない。国民は各政党が，誰を判事候補として擁立するかに注目し，判事の任命に影響を及ぼすべきである。優秀な最高裁判事の任命により，司法府全体のパフォーマンスが改善すると信じている。

**２　外交**

**（１）カルテス大統領の第８回ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席**

●５日，エクアドルを訪問したカルテス大統領は，ＵＮＡＳＵＲ本部において行われた特別首脳会合に出席し，コレア・エクアドル大統領及びサンペールＵＮＡＳＵＲ事務局長からの歓迎を受けるとともに，各国首脳との意見交換を行った。また，カルテス大統領は，同会合後，ネストル・キルチネル初代ＵＮＡＳＵＲ事務局長の像の除幕式に各国首脳とともに参加した。更に，カルテス大統領はＵＮＡＳＵＲ本部の開所式に出席し，開所式後，記者団に対し，「地域統合以外に道はなく，域外に罪を押しつけるのではなく，自分たちの責任を果たすべく，アイデアを行動に移すべきである。」旨述べ，ＵＮＡＳＵＲを通じた地域統合の重要性を強調した。

**（２）カルテス大統領の第２４回イベロアメリカ・サミット出席**

●８日～９日，カルテス大統領は第２４回イベロアメリカ・サミット出席のためメキシコ・ベラクルスを訪問し，同首脳会合においてステートメントを行うとともに，同サミットのマージンにおいて，メキシコ及びスペインとの二国間会談を行った。

＜カルテス大統領のステートメント＞

●カルテス大統領は，持続可能な発展を達成するためには，産業の多様化が不可欠である旨述べるとともに，自身の政権の３本の柱が，持続可能な発展，民主主義，そして社会的包摂である旨強調した。

●また，世界的な生産性の向上，産業化，完全雇用，賃金の上昇により，周期性の成長から持続的な成長に移行させなければならない旨述べた。

●更に，イベロアメリカ各国が，優秀な人材の育成や公共事業の近代化などにより，競争の激しいグローバル化社会を生き抜くことが出来る旨述べた。

＜内陸国の脆弱性の克服を目的とするメカニズム策定にかかるコミュニケ＞

●昨年のサミットに引き続き，パラグアイによる働きかけの結果，内陸国であるパラグアイの脆弱性の克服を目的とするメカニズム策定のためのコミュニケが採択された。

●同コミュニケにおいて，加盟各国首脳は，パラグアイが大西洋と太平洋の重要なリンクになり得る事を認識し，パラグアイに対し，通過の自由の保障など必要な支援を行うことにコミットした。

＜二国間会談＞

●８日，カルテス大統領は，ペニャ・ニエト・メキシコ大統領との会談を行い，経済関係を中心に意見交換を行った。同会談の中でカルテス大統領は，通貨の安定性や法的安定性など，パラグアイの投資先としての魅力を伝えた。これに対し，ペニャ・ニエト大統領は，通信会社など，対パラグアイ投資の例に言及するとともに，メキシコにおいて，パラグアイ政府が投資誘致セミナーを実施することを提案した。

●同日，カルテス大統領は，スペインのラホイ首相との会談を行い，遅々として進んでいないメルコスール-ＥＵ・ＦＴＡ締結交渉につき，意見交換を行った。同会談の中でラホイ首相は，現在米国及び日本がＥＵとのＦＴＡ締結に向け交渉を粘り強く進めている旨述べ警笛を鳴らした。

**（３）カルテス大統領の第４７回メルコスール首脳会合出席**

●１７日，カルテス大統領は第４７回メルコスール首脳会合に出席し，同首脳会合においてステートメントを行った。

＜カルテス大統領のステートメント＞

●カルテス大統領は，ステートメントの中で，メルコスールは様々な困難に直面してきたが，その重要性に変わりはなく，パラグアイは引き続きメルコスールを通じた地域統合プロセスの強化に貢献していく旨述べた。

●また，競争の激しい国際社会において中心的な役割を果たすためには，コンセンサスを通じてメルコスールを強化する必要があり，右を優先課題とすべきである旨述べた。

●更に，同大統領は，地域統合プロセスの深化に向け，各国政府が対話を通じてそれぞれの戦略的ビジョンを収斂させ，メルコスール設立を定めたアスンシオン条約に集約された各種目標を達成しなければならない旨述べた。

＜ボリビアのメルコスール正式加盟を巡る議論＞

●１６日，加盟各国外相参加の下，メルコスール共同市場理事会が行われた。同理事会　　においては，パラグアイがメルコスールから資格停止を受けている間に承認されたボリビアのメルコスール正式加盟に関する議定書につき議論が行われたものの，合意には至らず,２０１５年前半に議長国ブラジルの下で，議論を継続することが決定された。本件に関し，ロイサガ外相は,「（パラグアイを含め）すべての国がボリビアの正式加盟を望んでいるものの，技術的な問題が残されている。」旨述べた。パラグアイ外務省関係者は，メルコスールでは全加盟国がすべての決定に関与するとの原則が存在し,ある加盟国が不在の間に決定された事項が，正式な決定となる前例を作るべきではないとしている。

**（４）バジール・レバノン外務移民相の当国訪問**

**●**２０日，当国を訪問したバシール・レバノン外務・移民相は，ロイサガ外相との会談を行った。両国外相は会談において，両国国民間の強固な絆を強調するとともに，国際的なアジェンダにつき話し合いを行い，意見の一致をみた。

●また，両国外相は，２０１５年第１四半期に両国外務省間の政策協議を実施することで一致するとともに，法律分野における協力協定の草案作成のための交渉を促進する事を決定した。

●更に，両国外相は，第４７回メルコスール首脳会合において，メルコスールとレバノンとの間で貿易・経済協力にかかる覚書が署名されたことを歓迎するとともに，（レバノン）移民の重要性及びその両国経済関係への貢献を強調した。

**（５）米・キューバ関係に関する外務省プレスリリース**

●１９日，パラグアイ外務省はプレスリリースを通じ，１２月１７日，ラウル・カストロ国家評議会議長とオバマ大統領が二国間関係正常化の開始を発表したことに満足の意を表明するとともに，外交関係再構築，両国市民の釈放，キューバ国民に対する制裁の影響の緩和に向けた措置に対する支援を表明した

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●２０日，バシール・レバノン外務・移民相（ロイサガ外相との会談）

**（２）往訪**

●４日～５日，カルテス大統領等，エクアドル訪問（第８回ＵＮＡＳＵＲ首脳会合出席）

●４日～６日，レイテ商工相，ウルグアイ訪問（経済関係イベントへの参加）

●４日～８日，バイアルディ女性相，米国訪問（ジェンダー国際会議等出席）

●８日～９日，カルテス大統領等，メキシコ訪問（第２４回ｲﾍﾞﾛｱﾒﾘｶ・ｻﾐｯﾄ出席）

●８日～１８日，ソサ労働・雇用・社会保障相，ｲｽﾗｴﾙ訪問（視察訪問）

●１１日～１７日，レイテ商工相，アルゼンチン訪問（ﾒﾙｺｽｰﾙ経済ﾌｫｰﾗﾑ出席）

●１６日～１８日，カルテス大統領等，ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ訪問（第４７回ﾒﾙｺｽｰﾙ首脳会合出席）

（了）